
 <p>町長 猪股 洋文</p>	<p>宮城県</p> <p>か み ま ち</p> <h1>加美町</h1> <p>善意と資源とお金が循環する 人と自然に優しいまち</p>	<p>【データ】</p> <p>※平成28年4月1日現在</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・人口：24,431人</li> <li>・世帯数：8,072世帯</li> <li>・面積：460.82km<sup>2</sup></li> <li>・町木：ブナ</li> <li>・町鳥：キジ</li> <li>・町魚：アユ</li> <li>・町花：ミズバショウ</li> </ul>  <p>町章</p>
---	--	--



## 【「イカノエ」と言える町に！！】

4年間で3度のリーグ優勝を果たしたサンフレッチェ広島の強さの秘訣は、選手全員が戦略を共有しており、途中出場選手を含め、各選手がきっちりと役割を果たすところだと言われています。まちづくりも同様で、自分の町の地方創生総合戦略を知らなければ住民も力の出しようがありません。加美町の戦略の4本の柱は①移住定住の促進、②観光の振興、③農家所得の向上、④エネルギー自給率の向上を掲げており、その頭文字を取ると「イカノエ」になります。

総合戦略を着実に推進するため、平成28年度は、国立音楽院宮城キャンパスの開校やモンベルと連携したアウトドアランド形成事業に加え、薬用植物の産地化やバイオマス産業都市構想の実現などを目指しています。

スルメイカは昔から縁起物として用いられ、結納品には「寿留女」と書き、女性の健康や子沢山を願う象徴として贈られます。また、昔はお金のことを「お足」と呼び、足が多いということで縁起物だったようです。

そんな縁起の良い「イカ」にあやかった「イカノエ」戦略を通して、町民が健康で、子どもが増え、お金が循環する町にしていきたいと思えます。誰もが我が町の総合戦略は「イカノエ」と言える町に！！

### 加美町のビジョン

善意と資源とお金が循環する、人と自然に優しいまち

### 私達のミッション

私達は、持続可能な加美町を創るため、共生、協働、自治の基本理念に基づき、「里山経済の確立」「健幸社会の実現」「子ども・子育て応援社会の実現」を目指します。

総合戦略 = 「イカノエ」

## 【加美町紹介】

加美町は、平成15年に3町が合併して誕生した町で、仙台市から北西に車で約1時間の所に位置しており、秀峰菓菜（やくらい）や鳴瀬川の清流により育まれた緑豊かなふるさとです。季節毎の大地の恵みがあり、新鮮で安心できる米や野菜・山菜を使った料理やお酒など「うまいもの」が堪能できます。住む人は穏やかで優しく、歴史に根差した「火伏の寅舞」や「柳沢の焼け八幡」をはじめ多くの伝統文化が残るとても魅力的な町です。温泉やコテージ、キャンプ場、ゴルフやパークゴルフ、カヌーなどアウトドアスポーツ施設も充実しています。



## 【健幸社会の実現に向けて】

平成27年8月に第二次加美町総合計画—加美町笑顔幸福プラン—を策定しました。「健やかで笑顔あふれるまち」をまちづくりの基本理念の1つとして、住民皆が元気で暮らせるよう健康づくりの推進から保健・医療・福祉の充実を目指し、関係機関の連携と協働により包括的なシステム構築を目標としています。

健康増進計画げんき加美町21では、生活習慣病を予防し、健康寿命を伸ばせるよう若い時から健康意識の醸成が図れるように、小中学校への出前健康教育や行政区毎の健康教室を地区の保健推進員等の協力を得ながら実施しています。また、若い世代で健診を受ける機会のない人達のため、平成28年度より基本健康診査対象年齢を30歳から引き下げて実施し、健診結果を受けての事後指導に力を入れています。

平成27年3月に策定した第2期加美町食育推進計画では、「食の和でげんきな加美っ子を育てよう」をスローガンに掲げ、主として子供たちの食の環境整備に力を注いでいます。加美町は県内でも大人の肥満が課題になっている地域ですが、保育所・幼稚園、小中学生の時から肥満児の割合が多く、住民の方々に様々な場面を通じて、更なる健康意識の啓発を図るとともに、関係団体・機関と意思の共有と連携した取り組みが重要と感じているところです。